

< 今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅱ 13章1-13節 >
コリントの信徒への手紙ⅠⅡから教えられたことを振り返る。

1 問題だらけのコリントの教会。主の教会とはどうあるべきか。

まず示されたことは、初代教会というと理想化して考えがちですが、この手紙によって決してそうではないことを知らされました。しかしそれは同時に、今の私たちが犯し得る罪の姿を見ることでもありました。それによって、「罪人にして義人」と宗教改革者ルターが表現したこと、すなわち、私たちが清らかになったから救われたのではなく、神様が御子の死によって開いて下さった赦し（罪人をありのまま受け入れて下さる）の恵みの中に置かれているに過ぎないことを覚え直せました。今なお色んな罪を犯す私たちですが、この恵みに感謝して生きる者となることを神様は望んでおられるのであり、そのために必要なことをこの手紙のパウロの勧めを通して色々示されました。

2 (1-3a) 愛ある厳しさ。三人の証人と三回目のパウロの訪問の関係。

「容赦しません」(2)とのパウロの言葉は厳しいですが、「二人ないし三人の証人の必要性」(申命記 17:6)にあたる三度の注意（三回目の訪問）によって誤った決めつけをしないことが考えられています。そこで問われているのは何でしょうか？

3 (3b-9) キリストの弱さは神の強さを示すことが分かっているか？

キリストが十字架にかけられた一見弱さに思える姿は、実は、私たち罪人の罪を赦して新たに生きる者として下さる神の力を示すものです。この恵みが分かっているか？ 分からず、別の福音を語っているなら容赦しない、とパウロは言っているのです。なぜか？ 教会はこのキリストの弱さ（赦して下さる優しさ）を示された神様の恵みに溢れた力を信じて生きる者からなる共同体だからです。

4 (10-13) 体なる教会を造り上げることに貢献する信仰を目指す。

パウロが示す信仰のあり方は個人主義的なものではなく、皆で主の共同体を建てることに取り組んでいくものです（「造り上げる」(10)：建築用語[10, 12章19, Ⅰ-14章4, 5, 12, 16, Ⅰ-3, 12章]）。その時に11-13節に勧められている姿に取り組むことが具体的に生まれて来るからです。その時、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わり」(13)が「あなたがた一同（教会!）」に注がれるのです。これからも皆で主の教会造りに取り組みながら各自の信仰を深めていきましょう！